

令和3年度事業報告

I 総括的事項

1 総括

当事業団は、平成31年3月に策定した第3次中期経営計画（令和元年度～令和5年度）に基づき、自主自立的経営を目指しつつ事業を推進してきた。

新型コロナウイルス感染症拡大が継続していることに伴い、昨年度同様、様々な事業が中止や形態を変えての実施となったところである。

令和3年4月にはグループホームの利用者及び職員等が新型コロナウイルス感染症に罹患した。その後、令和4年1月から3月に2寮3ファミリーで多数の利用者及び職員が罹患し、利用者のご家族等に多大なるご心配をおかけしたところである。水戸市保健所とあすなろの郷病院等と連携して、抗原検査及びPCR検査を迅速に実施し、拡大防止に努めた。いずれの時期においても軽症または無症状で重症化することなく、現在では全員が通常の生活に戻っているが、福祉施設における感染拡大のリスクの大きさと早期発見、早期対応の重要性をあらためて認識したところである。

なお、新型コロナワクチン接種につきましては積極的に推進し、あすなろの郷病院において利用者及び職員の希望者全員が3回目の接種を終了している。

県立あすなろの郷再編整備に向けて、4月にプロジェクトチームを14チーム発足し、各種課題の整理をしながら滞りなく事業が実施出来るよう検討を進めた。9月に「県立あすなろの郷建替工事基本設計」の設計業者が決まり、10月から県（営繕課、障害福祉課）及び設計業者と定期的な打合せを実施することとなった中、10月及び3月には各チームの報告会を行い、進捗状況を確認するとともに、さらなる検討課題についての共有を図った。

○「本部事務局」については、事務費の5%コストカット、給与明細書のWEB化による紙面発行の廃止など事務の効率化・合理化を進めるとともに、事業団経営委員会を開催し、中期経営計画の進捗管理を行った。多様化した価値観や働き方改革に伴い、コンプライアンスへの取り組みが重要になっていることから、研修を通して強化したほか、各種法改正にも対応した。また、今後、あすなろの郷の一部の施設を自主事業で運営を行うなどより一層の経営改善を進める必要があることなどから特に、次世代を担う職員の育成に注力した。この他、直接処遇職員が慢性的に不足していることから確保と定着のための施策を行った。

○「茨城県立あすなろの郷」については、重度障害者のセーフティネットの役割を果たすとともに質の高いサービスを提供し、利用者様の生活の質の向上に努めた。また、施設の老朽化に伴う建て替えの計画について、茨城県における基本的な構想が固まったことから、指定管理者として管理運営を受託している立場から、必要な情報を提供しているところである。加えて、これまで研究を重ねてきた罪を犯した知的障害者の地域社会での自立支援について、県地域生活定着促進事業を受託している社会福祉法人芳香会と連携し、事業の一翼を担い事業に取り組んでいるところである。

○「福祉サポートセンターあすなろ」については、相談支援事業、多機能型事業（就労継続支援B型・共生型デイサービス）、グループホーム事業のサービスを一体的に提供した。また、当該センターの利用者が安心して地域生活が送れるようサポートしているところである。

2 各事業所の概要

(1) 茨城県立あすなろの郷

- 障害者支援施設の管理運営
- 病院、医療型障害児入所施設・療養介護事業所、多機能型事業所の管理運営
- 地域生活支援センターの管理運営

○自主事業の実施（あすなろの郷売店事業）

（2）福祉サポートセンターあすなろ

○相談支援事業の実施

○多機能型事業の経営（就労継続支援B型・共生型デイサービス）

○共同生活援助事業（グループホーム事業）の経営

II 本部事務局

1 事業の概要

第3次中期経営計画に基づき、「茨城県立あすなろの郷」「福祉サポートセンターあすなろ」の運営指導を行うとともに、経営委員会を開催して計画の進捗状況についての点検・評価を受けた。

コンプライアンス関係においては、「苦情解決第三者委員会議」を開催し、利用者様の死亡によりご家族から受けた苦情について、これまで第三者委員から受けてきた助言に基づく支援方法等の改善状況について、あらためてご家族に説明したところである。また、コンプライアンス規程に基づき職員研修を実施し、コンプライアンス意識の向上を図った。

人材育成及び職員の業務意欲の向上等を目指し、能力評価に業績評価を加えた新人事評価制度を本格的に導入したところであるが、その結果を一部賞与に反映させた。

人材育成においては、例年実施している「岡崎基金研修」及び「チームマネジメント研修」については新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い中止となった。また、オンライン研修を活用しながら専門研修及び階層別研修を計画的に実施した。社会福祉法人芳香会との共催の「障害者福祉セミナー」は、「高齢知的障害者の摂食・嚥下と口腔ケア」等について、オンラインで講演いただいた。

非正規職員の確保が困難な状態が続いていることから、職場見学を随時行ったほか、オンラインによる学校説明会や就職相談会に参加し職員の確保に努めた。また、ホームページを活用した求人情報発信力の強化に取り組んだ。

2 事業の実績

（1）理事会等の開催

① 理事会

ア 第1回（令和3年5月25日）書面決議

- ・令和2年度事業報告及び収支決算について
- ・評議員選任候補者の推薦について
- ・役員選任候補者の推薦について
- ・定時評議員会の開催について

イ 第2回（令和3年6月15日）

- ・理事長、副理事長、常務理事の選定について
- ・評議員選任・解任委員の選任について

ウ 第3回（令和4年3月16日）書面決議

- ・令和3年度収支補正予算について
- ・令和4年度事業計画及び収支予算について
- ・役員賠償責任保険の加入及び法人負担について
- ・茨城県社会福祉事業団経理規程の一部改正について

② 評議員会

- ア 定時評議員会（令和3年6月15日）
 - ・令和2年度事業報告及び収支決算について
 - ・役員の選任について

(2) 監査等の実施

① 監事監査

- ア 第1回（令和3年5月18日）
- イ 第2回（令和3年11月29日）

② 財政的援助団体等監査（茨城県監査委員事務局所管）

- ア 予備監査（令和3年12月14日、15日）
- イ 委員監査（書面をもって実施）

③ 社会福祉法人・施設一般検査（茨城県福祉指導課福祉監査室所管）

- ア あすなろの郷（新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止）

④ 指定障害福祉サービス事業者等及び指定障害児事業者の実地指導（水戸市福祉部福祉指導課及び茨城県福祉指導課福祉監査室所管）

- ア あすなろの郷（新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止）

⑤ 県出資法人実地検査（茨城県障害福祉課所管）

- ア 本部事務局（令和3年12月17日）

(3) 事業団経営委員会の開催

第3次中期経営計画に基づき「事業団経営委員会」を設置し、委員には事業団幹部のほか、2名の外部委員を委嘱している。委員会では、計画の進行管理を行うとともに自己評価を行い、未達成の事項について分析を行った。

- ・外部委員 県障害福祉課長 前川吉秀
NPO 法人あすなろの郷手をつなぐ育成会理事長 立川益信
- ・開催日 令和4年3月7日（書面開催）

(4) 利用者へのサービス向上及び効率的な業務の推進

① 職場改善提案の実施

各事業所の職員から19件の応募があり、以下の3件を実効性・重要性に優れた提案であるとして表彰した。また、表彰提案の次年度実現に向けての検討を行った。

【優秀賞】 茨城県社会福祉事業団のSDGs宣言

【奨励賞】 企業認定制度の認定に向けた取り組み（労働者の安全や健康、働きがい、女性の活躍推進、子育て支援等に関する分野の認定）

【特別賞】 携帯電話の貸与

② 職場改善提案（優秀提案）の実施

- ア ヘルスロードを活用した取組の実施（令和3年10月15日～12月28日）

あすなろの郷の所内に整備したヘルスロードを活用することで、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に留意し職員の健康増進を図った。

イ スポーツクラブの設立について

本年度に設立したあすなろの郷スポーツクラブの活動状況や課題等について把握し、委員会による助言及び活動の進行管理を行った。

・月に2回程度、卓球バレーや風船バレー等の活動を提供した。

(5) 各事業等の管理

① 事業団幹部会議の開催

事業団の管理運営を統一的かつ円滑に実施するため、本部及び各事業所の主要事業について協議、調整するとともに、各部署で生じた課題等に対処した。

② 各事業所への指導

各施設及び各部署を巡回しながら、第3次中期経営計画に基づく業務推進や経理処理の指導を行った。

(6) コンプライアンス管理

① コンプライアンスの徹底

コンプライアンス委員会において、法令等違反行為の防止策を検討するとともに、職員研修を実施し、コンプライアンスに対する意識を徹底させた。

② 次世代育成行動計画の実施

昨年度より新たな計画による取組となった。男性職員の育児休業取得に関しては、今年度も新たに1名が取得した。現計画期間内において計2名が育児休業を取得し、目標を達成した。また、女性職員の取得率は100%を継続しており、引き続き取得率の水準を維持するとともに、職場復帰後のサポートの充実させていく。

○次世代育成行動計画（期間 令和2年4月1日～令和7年3月31日の5年間）

目標1	育児休業の取得状況を次のとおりとする。 男性職員：2人以上取得する。 女性職員：取得率100%の水準を維持する。
-----	--

目標2	妊娠中や産休・育休復帰後の女性職員のための相談窓口を設置する。
-----	---------------------------------

③ 女性活躍推進行動計画の実施

女性活躍推進法に基づき、今年度からは新たな計画による女性の活躍を推進するための取り組みを行った。管理職35名中11名の女性職員を登用したことにより、管理職に占める女性比率が31%となった。

○女性活躍推進行動計画（期間 令和3年4月1日～令和7年3月31日）

目標1	管理職に占める女性比率を30%以上とする。
-----	-----------------------

目標2	男性の配偶者出産休暇の取得率100%を目指す。 女性の育児休業の取得率100%を維持する。
-----	--

④ ストレスチェックの実施

労働安全衛生法に基づき、職員のストレスチェックが義務付けられたことから、茨城県総合健診協会に委託し実施した。

⑤ 苦情解決体制

社会福祉法第82条の規定に基づき「苦情解決第三者委員会」を開催した。今年度は、利用者様の死亡によりご家族から受けた苦情について、これまで第三者委員から受けてきた助言に基づく支援方法等の改善状況について説明し、ご意見、ご助言を受けた。

- ・開催日 令和3年10月1日
- ・出席者 第三者委員
矢花 光 委員 (学識経験者：元つくば国際大学産業社会学部講師)
小森 弘道 委員 (福祉関係者：茨城県社会福祉士会事務局長)
谷田部 亘 委員 (弁護士：大和田・谷田部法律事務所弁護士)
阿久津 正晴 委員 (弁護士：阿久津正晴法律事務所弁護士)
理事長、苦情解決責任者他

(7) 人材育成

職員の資質及び職務能率の向上を図るため、関係団体主催の研修会等に参加した。
新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンラインによる実施または中止とした。

① 岡崎基金研修

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、先進施設等への職員派遣及び代替研修を中止とした。

② 関係団体主催研修

ア 公社等連絡協議会

1部～5部課程研修においては、階層別研修と位置付け各階層で必要な知識やマネジメント力の習得を目的として参加した。(すべてオンライン研修)

研修内容	研修日	対象者	参加者
第1部課程研修	9月21日～22日	採用後3年以内の職員	5名
第2部課程研修	9月28日～29日	主事・技師等に相当し30歳未満の職員	6名
第3部課程研修	10月21日～22日	2部課程修了の職員または30歳以上40歳未満の職員	12名
第4部課程研修	11月15日～16日	新係長級の職員	5名
第5部課程研修	12月9日～10日	4部課程修了した管理監督職にある職員	3名
応接職員等研修	11月4日～5日	応接事務を担当する職員	1名
会計職員研修	11月29日	会計事務を担当する職員	3名
ライフプランセミナー	12月7日	定年退職を控えた職員	2名
合 計			37名

イ 全国社会福祉事業団協議会

研修内容	研修日	対象者	参加者
社会福祉法人会計に関する研修	中止	会計事務を担当する職員	—
専門性を向上させる研修	中止	労務管理を担当する職員	—
関東・甲信越ブロック職員研修	中止	関東・甲信越ブロック職員	—
指導者を育成する研修	中止	副寮長、専門員等に相当の職員	—
合 計			—

③ 内部研修

業務遂行に必要な知識及び技能を修得させるため、新人の職員を対象に研修を実施したほか、寮長、課長級の職員を対象に「コンプライアンス研修」を実施した。「次世代育成研修」及び「チームマネジメント研修」については、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、中止とした。

ア 新規採用職員研修

研修日	内 容	参加者
4月1日～2日 6日、9日	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理綱領、虐待防止マニュアル等について ・感染症対策、誤薬防止について ・メンタルヘルスについて ・接遇及び服務規程について ・防犯、防災について等 	正規職員 5名 非正規職員 16名
※中途採用者についてはその都度実施した。		

イ コンプライアンス研修

研修日	内 容	参加者
11月10日 11月19日	「ハラスメント防止研修」	課長、寮長、 副寮長、副参事 47名

ウ チームマネジメント研修

研修日	内 容	参加者
中止	「チームマネジメント研修」	—

Ⅲ 茨城県立あすなろの郷

1 指定管理業務等の概要

茨城県から指定管理を受けた「茨城県立あすなろの郷」（障害者支援施設、病院、医療型障害児入所施設・療養介護事業所、地域生活支援センター等）を運営し、利用者の基本的人権の尊重、生活の質の向上を目的とした本人中心の支援サービスを提供するとともに、県立施設としてのセーフティネットの役割を果たすため、民間では処遇困難な在宅障害者を受け入れた。

また、行動障害を有する方への対応として、専門的な知識及び技術を持つ職員を育成し、継続した支援を実施するとともに、県立施設としての役割を果たすため、民間施設職員も対象とした、茨城県立あすなろの郷セミナーを開催し、知的障害や行動障害を有する方への支援のあり方について外部有識者2名による講義をオンラインで配信した。

さらに、ノーマライゼーションの理念に基づき、利用者の意思を最大限尊重するとともに、保護者の意向に配慮した地域生活への移行に向けた取り組みとして地域で生活する様子や日中活動の様子等を法人内ネットワーク（サイボウズ掲示板）で紹介した。

なお、今年度についても新型コロナウイルス感染症の影響で、計画していたいくつかの事業が延期もしくは中止となったが、その中で実施できた事業については、オンラインを活用し実施した。

2 受託事業の実績

(1) 障害者支援施設の管理運営

入所利用者に対して、多様な経験のできる機会を提供するとともに、写真、イラスト等でわかりやすい情報の提供を行い、意思決定につなげる支援を実施したほか、強度行動障害を有する方への支援や、高齢者・高介護者への支援を行った。強度行動障害を有する方については、強度行動障害者支援担当部会において、支援目標を定め年間を通して支援経過を追いながら、行動を変える支援を行い生活の質の向上を図った。高齢者・高介護者への支援については、高齢者・高介護者支援検討部会において、知的障害者の認知症について、外部有識者を講師として、支援方法の確立を目的とした研修を実施するとともに、最新福祉機器の導入を協議・検討した。

年度を通して新型コロナウイルス感染症予防対策を実施し“持ち込まない、拡げない”を徹底したが、今年1月から3月にかけて、所内の2寮3ファミリーにおいて職員・利用者が感染した。水戸市保健所及びあすなろの郷病院等と連携して感染拡大防止に努めた結果、罹患した職員・利用者ともに軽症または無症状で、重症化することなく終息した。

また、コロナ禍で制限はあったが障害者の地域での生活を支えるため通所事業、短期入所事業を展開し、他障害福祉サービス事業所では支援困難な方を中心に受入れを行ったほか、在宅障害者が自立した生活を営むことができるよう、個々のニーズに合わせた支援を行った。

なお、施設利用状況は、通所、短期入所利用人数など、新型コロナウイルス感染症対策で受入の制限期間があったため、前年と同様に大幅に減少した。

内原地区においては、福祉サービス事業所や介護保険サービス事業所と情報を共有し地域活動の連携を図ることを目的とした「ちいともネット内原」での活動に参加した。

① 利用者数

ア 障害者支援施設利用人数

月初日在籍者数 (単位：人)

施設種別(定員)	月												年間延人数	月平均
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
障害者支援施設 入所利用(462)	407	406	406	404	402	402	401	401	401	400	399	395	4,824	402.0
障害者支援施設 通所利用(30)	5	0	0	0	0	0	0	5	5	5	0	0	20	1.7
計 (492)	412	406	406	404	402	402	401	406	406	405	399	395	4,844	403.7

※ 3月のみ月末在籍数

※ 通所利用者については、新型コロナウイルス感染症対策のため、受け入れの制限期間があった。

イ 短期入所事業利用人数

(単位：人)

事業種別(定員)	月												年間延人数	月平均
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
短期入所事業 (28)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	3

② 入退所の状況

令和4年3月末現在 (単位：人)

施設種別	区分	入 所			退 所			
		他施設等	在宅	計	他施設等	在宅	死亡	計
障害者支援施設 (入所)		1	0	1	4	0	9	13

※ 他施設等には医療機関を含む。

③ 障害支援区分の状況

令和4年3月末現在 (単位：人)

施設種別	区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分1~2	計
		障害者支援施設(入所)	315 (79.8%)	66 (16.7%)	14 (3.5%)	0 (0%)	0 (0%)
障害者支援施設(通所)	2 (22.2%)	4 (44.5%)	3 (33.3%)	0 (0%)	— (0%)	9 (100%)	
計	317 (78.5%)	70 (17.3%)	17 (4.2%)	0 (0%)	0 (0%)	404 (100%)	

※ ○入所者平均支援区分 5.8 ○入所者平均年齢 52.1歳 ○入所者平均在所年数 26.0年

④ 療育手帳の状況

令和4年3月末現在 (単位：人)

施設種別	区分	㊤	A	B	C	計
		障害者支援施設(入所)	299 (75.7%)	86 (21.8%)	9 (2.3%)	1 (0.2%)
障害者支援施設(通所)	3 (33.3%)	6 (66.7%)	0 (0%)	0 (0%)	9 (100%)	
計	302 (74.8%)	92 (22.8%)	9 (2.2%)	1 (0.2%)	404 (100%)	

⑤ 身辺自立の状況

令和4年3月末現在（単位：人）

施設種別	できない	少しできる	ほぼできる	できる	よくできる	計
	全面的に 介助を必要 とする	概ね介助を 必要とする	指示をすれ ば概ね介助 を必要とし ない	指示をす れば介助 を必要と しない	介助を必 要としな い	
障害者支援施設（入所）	128 (32.4%)	130 (32.9%)	107 (27.1%)	22 (5.6%)	8 (2.0%)	395 (100%)
障害者支援施設（通所）	1 (11.1%)	4 (44.5%)	3 (33.3%)	1 (11.1%)	0 (0%)	9 (100%)
計	129 (31.9%)	134 (33.2%)	110 (27.2%)	23 (5.7%)	8 (2.0%)	404 (100%)

※ 5段階評価は、日本知的障害者福祉協会の基準に基づいている。

(2) 利用者の支援

① 日常生活支援

利用者の希望と意向に添い、地域生活移行を基本とする個別支援プログラムに基づいた支援を実施した。また、希望者に対して多機能型事業所の利用を提供した。

② 日中活動支援

利用者の障害特性や支援目標に沿って基礎活動や作業活動等を実施した。また、高齢者及び高介護者を対象とした身体機能の維持及び低下を予防するための支援プログラムの充実を図るとともに、移動等が困難な利用者に対して身体機能等の保持を目的に、寮内においてミュージック・ケア等を用いたプログラムにより支援を行った。

ア 基礎活動

(単位：人)

区分	利用者の概要	支援目標	支援内容	対象者数
1	高齢デイ班			
	<ul style="list-style-type: none"> 概ね60歳以上の作業班等を引退された利用者 歩行や身体機能、精神状態に何らかの高齢化現象が生じた利用者 新たな生き甲斐を必要としている利用者 	<ul style="list-style-type: none"> 心身機能の維持増進 体力や身体機能低下予防 新たな生き甲斐作り 本人たちが望むプログラムの実施 (楽しい居場所作り) 	<ul style="list-style-type: none"> リハビリや機能低下予防を目的とした体操を行う。 太鼓やカラオケなどを取り入れ、楽しんで活動できるプログラムを提供する。 本人主体のプログラムを実施する。 	60
2	基礎班			
	<ul style="list-style-type: none"> 集団での運動活動及び動作機能の向上を目的とする利用者 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的運動能力の向上 体力、健康の維持増進 動作機能の向上 コミュニケーションの向上 	<ul style="list-style-type: none"> ミュージック・ケア等を用いた活動を行う。 ムーブメント療法を用いた活動を行う。 	67

3 個別教室 (学習棟の解体に伴い7月から中止)			
<ul style="list-style-type: none"> ・身体機能の向上を目的とする利用者 ・個別的な関わりを通してコミュニケーション能力を高める事の期待できる利用者 	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚機能を高める教材の活用と見通しのある課題の設定 ・達成感や満足感を味わうことで積極性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚教材を用いた活動を行う。 	0
4 行動障害班			
<ul style="list-style-type: none"> ・行動障害を有する利用者 (はぎ寮、ふじ寮) 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動問題の軽減 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材を用いた学習活動を行う。(応用行動分析学及びTEACCH的手法を使用) ・利用者に分かりやすい環境を整える。(物理的構造化) 	3
5 行動障害歩行班			
<ul style="list-style-type: none"> ・行動障害を有する利用者 (はぎ寮、ぼたん寮、さくら寮) 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動問題の軽減 	<ul style="list-style-type: none"> 同じルートで、所内歩行を行うことで不安を与えることなく自主的な行動を促す。 	4
6 寮個別班			
<ul style="list-style-type: none"> ・移動困難な利用者 (うめ寮、はぎ寮、あやめ寮、さつき寮、さくら寮、ぼたん寮、つばき寮) 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を用いた基本動作の獲得と身体機能の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミュージック・ケア等を用いた活動を行う。 	131
7 特別班			
<ul style="list-style-type: none"> ・行動障害を有する利用者 (つばき寮、ゆり寮西ファミリー) 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動問題の軽減 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材を用いた学習活動を行う。(応用行動分析学及びTEACCH的手法を使用) ・利用者に分かりやすい環境を整える。(物理的構造化) 	27
合 計 292 (実数 290)			

イ 作業活動

(単位：人)

班名・実習先	活 動 ・ 実 習 内 容	対象者数
1 屋外作業		
屋外作業班	露地野菜、椎茸等の栽培、あやめ、花壇の管理 梅、栗、キウイ、ブルーベリー等果樹類の栽培	15
2 屋内作業		
プラスチック1班	プラスチックポンプの解体	18
プラスチック2班	プラスチックポンプの解体	9
プラスチック3班	プラスチックポンプの解体	6
プラスチック4班	プラスチックポンプの解体	36
プラスチック5班	プラスチックポンプの解体	13
屋内作業 計		82

3 職場適応訓練(所内)		
あすなろ売店	販売の補助作業	0
合 計 97		

③ クラブ活動

余暇活動の一環として障害特性、加齢等に伴う心理面での変化に配慮し、創作活動などの生活に潤いをもたらす活動を実施した。

(単位：人)

クラブ名	活 動 内 容	対象者数	ボランティア数
音楽クラブ	ハワイアンダンスの練習	22	0
造形クラブ	ちぎり絵の制作	4	0
スポーツクラブ	レクリエーション及び障害者スポーツ	27	0

※ 音楽クラブボランティアについては、新型コロナウイルス感染症対策を継続して実施したため活動参加はなかった。

④ 強度行動障害者支援の充実

強度行動障害を有する方への支援を効率的・効果的に実施するため、強度行動障害者支援担当部会において、行動障害を有する方に対し、支援目標を定め、応用行動分析学及びTEACCHプログラムの手法を用いた支援を実施した。一年を通して支援経過を追い、協議を行いながら、行動を変える支援を行い、生活の質の向上を図った結果、年度当初に比べ行動問題等が改善され成果を上げた。

また、強度行動障害の状況を把握することを目的として、強度行動障害判定基準及び異常行動チェックリスト日本語版による年2回の強度行動障害実態調査を実施し、著しい行動問題を有する方には、外部有識者及び行動支援専門員と寮職員とが連携して支援し行動問題を軽減した。

行動支援専門員育成研修では、第5期生が上級課程を、第6期生は初級課程を修了した。

強度行動障害者支援担当部会の他、所内外へのアプローチとしては、行動支援専門員を中心にあすなろの郷ABA(応用行動分析学)勉強会、及び令和3年度茨城県立あすなろの郷セミナーを実施した。

ABA勉強会については、新型コロナウイルス感染症の影響により開催方法を昨年を引き続きリモート勉強会として、基礎編6回(前期3回・後期3回)、応用編4回を開催し、知識や技術の普及、支援のスキルアップを図った。

また、県内福祉施設、特別支援学校等からは、新型コロナウイルス感染症の影響で職員派遣依頼がなかったため実施していないが、リモートで実施できる体制を整えてあることから、次年度以降、依頼があった場合は、リモートでの対応も可能である。

研修等	対象者	内容	参加者数
ABA(応用行動分析学)勉強会	希望者 ※あすなろの郷職員及び他施設職員	<p>基礎編(R3.5月～R4.2月) 行動の基礎についての知識 前期3回 後期3回 全6回 ※オンラインで実施</p> <p>基礎編【前期】 第1回 R3.5/20 第2回 R3.6/17 第3回 R3.7/29</p> <p>【後期】 第1回 R3.12/23 第2回 R4.1/20 第3回 R4.2/17</p> <p>応用編(R3.8月～R3.11月) 全4回 基礎編より支援現場で活用できるツールや支援方法について ※オンラインで実施</p> <p>応用編(8月～11月) 第1回 R3.8/19 第2回 R3.9/16 第3回 R3.10/21 第4回 R3.11/18</p>	<p>【基礎編】前期 あすなろの郷職員 3名 他施設職員 82名 計 85名 ※実人数</p> <p>【基礎編】後期 あすなろの郷職員 0名 他施設職員 12名 計 12名 ※実人数</p> <p>【応用編】 あすなろの郷職員 7名 他施設職員 52名 計 59名 ※実人数</p>
行動支援専門員育成研修	第5期生	後任職員指導の他、最新論文をパワーポイントにまとめ、プレゼンテーションを行った。また、現場での支援実践、経過報告を行い、各種学会等への論文の執筆及び掲載に向けた取組みを行った。	5名
	第6期生	発達障害等の知識や応用行動分析に関する基礎知識を学習した。また、研修で得た理論をもとに、支援実践のための基礎技術を学び実践を行った。	7名

※ 強度行動障害

生活環境に対する特異な不適応行動が非常に多い頻度で見られ、日常生活に著しく困難を生じている状態

※ 応用行動分析学

行動がなぜ起こるか原因を探り、個々にあった支援を実施していく方法

※ TEACCH的手法

自閉症及び関連するコミュニケーション障害を有する障害児・者のための療育

※ 行動支援専門員育成研修

行動障害等を軽減、予防する支援技術(応用行動分析学など)を習得し、職員の質の向上と専門性を高めることを目的とした研修。研修期間は4年とし、1年目を初級課程、2年目を中級課程、3年目を上級課程、4年目をスーパーバイズとしており、第1期生から第4期生が研修を修了。

⑤ 高齢者・高介護者支援の充実

知的障害者の認知症について、外部有識者を講師として、支援方法の確立を目的とした「高齢知的障害者専門員育成研修」を実施した。そして、今後の高齢知的障害者専門員育成研修カリキュラムを3年間で終了となるように学習配分、実施方法等を、外部講師と検討した。

また、全寮を対象に低床型電動ベッドの導入について調査したほか、吸引器を更新配備するなど生活の質の向上を図った。加えて、施設設備修繕要求やコロナ禍での健康維持について等新たな課題の検討を行った。

さらに、利用者の個別支援計画に基づき、理学療法士及び作業療法士と連携のもと、身体機能維持に向けた利用者支援の強化を図った。医療面で入退院を繰り返す利用者に対し、個々の身体状況や介護の必要度に応じたケアを実施し、あすなろの郷病院や県立中央病院等、医療機関との連携を図りながら、利用者の希望に応じて県内介護保険施設等への移行も進めた。加えて、身体障害者手帳の取得及び更新を目的として、身体機能の変化に応じた身体障害者手帳取得必要度調査を行った。

視察施設等	内 容	参加者数 (実人数)
国際福祉機器展	高齢者、障害者の自立支援を支え社会参加を促進するため、時代の変化に応じたさまざまな福祉機器に関する情報の収集 ※9/5 からサイトが公開され、公開後は常設サイトとして閲覧可能。部会等で情報の周知を行った。	—
研 修	内 容	参加者数 (実人数)
第20回 21世紀、食のフォーラム	いつまでもおいしく口から食べるための工夫について	【web研修】 9月25日 2名
高齢知的障害者専門員育成研修	認知症障害者の実例をとおして、認知症状の基礎知識、生活歴の記録の重要性等を学ぶ	【web研修】 10月14日 12名

※ 高介護者

身体能力等の低下（様々な疾病や老化による精神症状等）により、ADL（日常生活動作）が極度に低下した利用者

⑥ 罪を犯した障害者への支援

罪を犯した障害者への支援ワーキングチームにおいて、再犯防止の観点から福祉的支援を必要とする触法障害者に対し、障害者支援施設としての支援方法や関係機関との連携のとり方を学んだ。コロナ禍のため、関係機関等の視察は実施できなかったが、オンライン研修の回数を増やし多くの委員が参加する機会を設けた。また、茨城県地域生活定着支援センター分室との勉強会を通し、関連する制度や支援についての理解を深めた。

研 修	内 容	参加者数 (実人数)
第55回日本発達障害学会研究大会ポストセミナー	テーマ「非行・犯罪行為のある知的・発達障害者の支援—インクルージョン、リスク評価、エンパワメント」	【web研修】 9月25日 2名
知的障害のある犯罪行為者への支援を学ぶ研修会（初級編）	テーマ「刑事司法の基本」「対象者理解の基本」「支援者としてのあり方の基本」	【web研修】 7月1日～3月31日 12名

知的障害のある犯罪行為者への支援を学ぶ研修会 (中級編)	テーマ「刑事司法の実践」「対象者理解の実践」「支援者としてのあり方の実践」	【web研修】 10月1日～3月31日 12名
全国地域生活定着支援センター協議会 関東・甲信越ブロック研修会	テーマ「罪に問われた障害者・高齢者支援の再出発～支援のはじまり～」	【web研修】 11月11日 1名
知的障害のある犯罪行為者への支援を学ぶ研修会 (ふり返り講習会)	テーマ「鼎談」	【web研修】 12月17日 3名

⑦ 社会参加及び地域交流

利用者の社会参加を促進するため、文化活動へ参加した。地域との交流については、新型コロナウイルス感染症予防のため自粛した。

ア 文化活動

区分	催事	応募作品	備考
文化芸術活動	ナイスハートふれあい フェスティバル2021 12月3日(金)～12月6日(月)	絵画(ちぎり絵) 写真	(発表会鑑賞) 参加利用者 0名 引率職員 0名
		生産物販売 根菜類 葉物、果実	販売担当者 2名

※新型コロナウイルス感染症対策のため参加を見合わせた。

イ 主要行事の参加状況 (利用者数には医療型障害児入所施設・療養介護事業所利用者を含む) (単位:人)

名称	実施時期	利用者数	職員数	来所者数	参加者数
春の旅行	中止				
秋祭り及び花火大会	9月8日・11日	311	102	—	413
秋の旅行	中止				
今年は魚ギョっと! ふれあい動物園 (あすなろ祭代替行事)	11月11日	368	124	—	492

⑧ リスクマネジメント (安全管理) 会議

利用者にサービスを提供する中で発生する事故やひやり・はっとする事態の発生を防止するため、職員に対し「ひやりはっと報告書」や「ひやりはっとメモ」を提出させ、関係部会において協議し、安全管理に関する取組を強化した。

検討に当たっては、各部署から提出された「事故報告書」及び「ひやりはっと報告書」の内容を発生時刻、場所、発生状況等それぞれの観点から分析し、事故発生メカニズムの解明、発生予防、再発防止等に努めた。

ア 事故発生防止対策部会

利用者及び職員の事故発生を予防するため、各部署から提出された「事故報告書」及び「ひやりはっと報告書」の内容を分析し、予防対策等を協議した。分析の結果、発生しやすい時間帯、生活場面など一定の傾向がみられたものに対しては、業務内容や支援手順の見直し、設備の改修などの改善意見を提案した。

事故防止マニュアルについては、現状に即した内容へ改訂を行い、報告様式等を整理し周知・徹底を図った。また、利用者への誤薬など重大な事故が発生した際には、その都度、臨時委員会を開催し、原因究明と再発防止策等の予防策について検討を行い、事故防止への更なる対応強化を図った。

イ 感染症予防対策部会

マスク着用、手指衛生、環境衛生を強化した標準予防策と感染経路別予防策を実施し、施設内感染対策の継続を図った。

また、感染予防ポスターを年4回発行し、感染症に対する意識の向上と感染対策の習慣化を促進した。

施設内での感染対策はもとより、施設外での注意点や対策ポイントを周知しながら、利用者及び職員の日常生活上の対策について指導を行い、外部からの感染防止に注力した。

ウ 食中毒予防対策部会

食中毒の予防及び発生した場合の対応策等についての協議を行った。

また、食中毒予防対策マニュアルの遵守や「茨城県食の安全対策室」から出される県内食中毒情報を職員へ随時伝達することで注意喚起を行った。また、部会員による各寮棟への現況視察を実施することで現状の把握を計画していたが、新型コロナウイルスが蔓延したため当該視察を中止し、衛生管理の重要性を周知した。

⑨ 虐待防止委員会

利用者への虐待防止を図るため、外部委員3名及び内部委員5名による虐待防止委員会を構成し、虐待の早期発見と防止対策等について協議した。

回数	実施日	内容
第1回	6月25日	・虐待防止チェックリストの集計結果、各寮巡回の結果、全職員を対象に実施したストレスチェックの集計結果等の報告 ・改善計画の確認
第2回	書面により実施	・改善計画の進捗状況の確認 ・虐待防止チェックリストの集計結果、各寮巡回の結果、全職員を対象に実施したストレスチェックの集計結果等の報告

※ 第2回については、新型コロナウイルス感染症対策のため、資料配付にて対応した。

(3) 病院の管理運営

① 利用者の診療及び健康管理

あすなろの郷利用者等の診療及び健康管理を行った。新型コロナウイルス感染症対策として、利用者及び職員等に対してワクチン接種を行うと共に感染の疑いがある利用者等に対しては、積極的なPCR検査を行った。

また、感染が確認された利用者に対しては、水戸市保健所の協力を得ながら治療を行い重症化に至ることなく軽症で留めることが出来た。

ア 入院の状況

令和4年3月末現在

対象区分	病院区分	あすなろの郷病院			他病院		
		患者数 (人)	延日数 (日)	一人当日数 (日)	患者数 (人)	延日数 (日)	一人当日数 (日)
重症心身障害児・者		40	14,585	364.6	2	15	7.5
知的障害者		9	75	8.3	56	1,148	20.5

イ 通院の状況

令和4年3月末現在 (単位：人)

対象区分	病院区分	あすなろの郷入所児・者		在宅障害児・者	その他	計	
		あすなろの郷病院	他病院	あすなろの郷病院	あすなろの郷病院	あすなろの郷病院	他病院
内科		9,195	132	418	78	9,691	132
小児科		0	0	0	0	0	0
外科		449	23	6	4	459	23
整形外科		555	134	11	6	572	134
精神科		4,074	53	612	6	4,692	53
脳神経外科		214	4	16	0	230	4
耳鼻咽喉科		53	11	0	0	53	11
皮膚科		1,170	7	19	7	1,196	7
歯科		1,273	6	15	6	1,294	6
眼科		101	52	1	0	102	52
リハビリ科		1,049	0	218	0	1,267	0
その他		0	38	0	0	0	38
合計		18,133	460	1,316	107	19,556	460

ウ 新型コロナウイルスワクチン接種状況

令和4年3月末現在 (単位：人)

対象区分	接種回数	1回目	2回目	3回目	計
		入所者	438	434	381
ホーム入居者	59	58	59	176	
通所利用者	17	16	16	49	
職員等	421	420	383	1,224	
その他	8	14	0	22	
合計		943	942	839	2,724

② 多機能型事業の実施

新型コロナウイルス感染症対策を講じながら在宅の重症心身障害児・者に対し、日常生活動作・運動機能等に関わる療育を実施するとともに、その保護者等にも療育に関する技術を提供した。

また、新型コロナウイルス感染予防として、利用者が利用している他事業所と情報を共有するとともに、パンフレットを作成し保護者等に配布して感染予防に努めた。

○多機能型事業利用実績 令和4年3月末現在

区 分	実 績
開 設 日 数	191 日
延 利 用 者 数 (者)	877 人
実 人 数 (者)	13 人
1 日平均利用者数	4.6 人

※ 新型コロナウイルス感染症対策のため、1月18日から3月31日までの期間は受け入れを制限した。

(4) 医療型障害児入所施設、療養介護事業所の管理運営

利用者の人格を尊重して一人ひとりの持てる力に働きかけ、その人らしい療育生活が送れるように支援し、季節の変化や日々の生活を楽しめる療育活動を提供した。

また、新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、多職種と連携して安全で質の高いケアサービスを提供した。

① 利用者数

月初日在籍者数 (単位:人)

施設種別(定員)	月												年間 延人数	月平均
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
医療型障害児入所施設	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	1.0
療養介護事業所	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	468	39.0
計(40)	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	480	40.0

※ 定員数については、医療型障害児入所施設と療養介護事業所併せて40人

※ 3月のみ月末在籍数

② 入退所の状況

令和4年3月末現在 (単位:人)

施設種別	入 所			退 所		
	他施設等	在宅	計	他施設等	死亡	計
医療型障害児入所施設	0	0	0	0	0	0
療養介護事業所	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0

③ 療育手帳の状況

令和4年3月末現在 (単位:人)

施設種別	区 分				計
	㊤	A	B	C	
医療型障害児入所施設	1 (100%)	— (0%)	— (0%)	— (0%)	1 (100%)
療養介護事業所	39 (100%)	— (0%)	— (0%)	— (0%)	39 (100%)
計	40 (100%)	— (0%)	— (0%)	— (0%)	40 (100%)

※ ○入所者平均支援区分 6.0 ○入所者平均年齢 50.6 歳 入所者平均在所年数 33.0 年

④ 身辺自立の状況

令和4年3月末現在 (単位：人)

施設種別	区分					計
	できない 全面的に介 助を必要と する	少しできる 概ね介助を 必要とする	ほぼできる 指示をすれば 概ね介助を必 要としない	で き る 指示をすれ ば介助を必 要としない	よくできる 介助を必要 としない	
医療型障害児入所施設	— (0%)	1 (100%)	— (0%)	— (0%)	— (0%)	1 (100%)
療養介護事業所	39 (100%)	— (0%)	— (0%)	— (0%)	— (0%)	39 (100%)
計	39 (97.5%)	1 (2.5%)	— (0%)	— (0%)	— (0%)	40 (100%)

※ 5段階評価は、日本知的障害者福祉協会の基準に基づいている。

(5) 地域生活支援センターの管理運営

① 障害児(者)短期入所事業等

主に他の障害福祉サービス事業所では対応が難しく、地域生活を続けることに困難を抱えている利用者に対し、当施設が有する機能を活用し、個々のニーズに合わせた対応を行った。県内の新型コロナウイルス感染症発生状況に応じた予防対策を講じ利用を制限したことにより、実績は減少した。

ア 短期入所利用実績

令和4年3月末現在

区分	利用状況	
短期入所(宿泊利用)	延件数(件)	延日数(日)
知的障害児	0	0
知的障害者	36	1,095
重症心身障害児・者	0	0
計	36	1,095

- ※ 年間利用実人数 3人
- ※ 1日当たり平均利用人数 3.0人
- ※ 1回当たり平均利用日数 30.4日
- ※ 1人当たり平均年間利用回数 12.0回

イ 日中一時支援等利用実績

令和4年3月末現在

区分	利用状況	
日中一時支援	延件数(件)	延日数(日)
知的障害児	0	0
知的障害者	1	1
重症心身障害児・者	0	0
計	1	1
24時間緊急ステイ	延件数(件)	延件数(件)
緊急ステイ	1	1

(内休日受入)	1	1
(内夜間受入・20時以降)	0	0
宿泊支援サービス	延件数(件)	延件数(件)
親子宿泊	0	0
生活スキルトレーニング	0	0
計	0	0

※ 24時間緊急ステイ

在宅の障害児・者の生活を支援するため、保護者の急病などの場合に、1泊2日を原則として24時間いつでも利用者の受け入れを行うもの

※ 宿泊支援サービス

障害児・者には日常生活に必要な生活動作を習得するための支援を、また、保護者には家庭における療育方法の助言を行うもの。なお、令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策により休止した。

② 茨城県障害児等療育支援事業

当施設の有する機能を活用し、療育・相談体制の充実を図り、在宅の障害児・者の地域における生活を支えるため、次の事業を実施した。また、在宅の障害児・者に関わる支援者を対象に、発達心理学及び応用行動分析学の理論に基づいた支援方法の提案、助言を行うとともに、知識及び技術の普及を図るための啓発活動や情報の提供を行った。

なお、各事業においては、県内の新型コロナウイルス感染症発生状況に応じた対策を講じた。療育形態を集団から個別に変更するとともに、感染拡大期には支援方法を対面からリモートへ切替えて実施した。また、家庭において親子で取り組める療育動画、事業所でも取り組める自立課題やムーブメント教育・療法等の動画を定期的にオンラインで配信した。

令和4年3月末現在

1 訪問療育支援事業			
訪問支援等	26件	相談・支援を希望する在宅障害児・者の家庭及び保育所等を訪問し、各種相談・支援を実施。	
2 外来療育支援事業			
外来支援等	346件	在宅の障害児・者及び保護者に対し、外来の方法により各種相談・支援を実施。	
電話相談	651件	在宅の障害児・者に対し、電話による各種の相談・支援を実施。	
3 保育所等施設支援事業			
施設支援	81件	障害児の受け入れを行う保育所等の職員に対し、療育に関する知識及び技術の相談・指導を実施。	
4 その他			
講師派遣	9件	関係機関からの依頼により、発達障害に関する研修会へ講師を派遣。	
療育動画配信	22件	YouTubeにムーブメントや親子で行う工作等、療育関連動画の配信を行った。(動画の合計再生回数 22,819回)	

② 解決状況

(単位：件)

解決方法	解決者						
	職員	副寮長	寮長 センター長 室長	部長	所長	第三者 委員	計
1 早急に対応改善した							
2 対象者へ説明し納得							
3 行政機関との調整にて納得							
4 本部事務局との連絡調整							
5 その他							
計	0	0	0	0	0	0	0

(8) 施設整備

利用者の安全や快適な生活を確保するため、老朽化対策・衛生対策・機能改善等を修繕計画等に基づき、次のとおり実施した。

① 各種修繕等

- ア 施設、設備の老朽化対策
 - ・ぼたん寮東 浴槽内補修工事
 - ・新棟エレベーター（NO1）修理
 - ・新棟エレベーター（NO2）修理
 - ・新棟厨房プレファブ冷凍庫修理
 - ・新棟厨房プレファブ冷蔵庫修理
 - ・サービスセンター棟厨房天井壁塗装改修工事
- イ 利用者生活空間の快適性の確保
 - ・あざみ寮東西食堂・Dルーム床改修工事
 - ・つばき寮東西Dルーム壁塗装工事
- ウ 防災・防犯設備関係
 - ・ばら寮居室ガラスフィルム貼工事
- エ 機械設備関係
 - ・サービスセンター他高圧設備V T修繕工事
 - ・新棟機械室膨張タンク更新工事

② 県工事等

- ア 既存寮屋上防水工事（あやめ寮、ばら寮）
- イ サービスセンター高温水ボイラー撤去及び配管撤去工事
- ウ 新棟厨房食器洗浄機
- エ 新棟スチームコンベクションオーブン

(9) 防災対策

利用者の安全確保及び財産の保全を目的として、設備の点検と改善並びに消防訓練を実施した。

① 防火対策委員会の運営

- ア 第1回 8月4日
- イ 第2回 2月4日（書面にて実施）

② 消防訓練の実施

- ア 総合消防訓練
 - ・8月27日（夜間想定）ゆり寮配膳室（出火想定場所）
 - ・3月2日（新型コロナウイルス蔓延により中止。各寮において代替研修を実施）

- イ 避難訓練
 - ・各寮毎月1回実施

③ 消防設備

- ア 消防用設備の自主点検
 - 消防用設備等自主点検チェック票に基づき、あすなろの郷消防計画に定める火気取締責任者が、8月と2月に検査を実施した。
- イ 設備の整備
 - 消防法第8条に基づき防火対象物点検及び消防設備点検を行い、経年劣化等で不良の設備・器具に対して改修・更新修理を実施した。

(10) 防犯対策

利用者に対する生活支援に適した平穏かつ安心・安全な環境の提供を目的に、安全対策の構築及び防犯訓練の実施を計画していたが、新型コロナウイルスの蔓延により防犯訓練については中止とした。

- ア 防犯訓練
 - ・1月25日 水戸警察署の協力により、さすまたの使用等実践的な訓練を計画していたが、新型コロナウイルスの蔓延により中止とした。
- イ 防犯対策に関する研修
 - ・新規採用職員研修で実施

(11) 内部研修

(単位：人)

研修名		内 容	対 象 者	受講者数
新規採用職員研修		サービス規程、倫理綱領、虐待防止、行動障害支援、防犯対策等	非正規を含む 新規採用職員	21
一般職員研修	腰痛予防研修	腰痛の理解と負担の少ない介助方法の習得等	全職員	中止
	交通安全講習会	外部講師（茨城県水戸警察署員及び水戸地区交通安全管理者協議会事務局長）による交通安全に対する意識及びマナー向上、運転適性検査等	全職員	29
嘱託職員及び臨時職員研修		強度行動障害について	嘱託職員及び 臨時職員	125
メンタルヘルス研修		外部講師（一般社団法人日本アンガーマネジメント協会）による精神面を含めた健康管理	課長・寮長 副寮長	39
リスクマネジメント研修 （ハラスメント防止について）		外部講師（社会保険労務士）によるハラスメント防止について等	課長・寮長 副寮長	47
岡崎基金代替研修		感染防止対策及び日中活動の充実について	全職員	中止
専門研修	普通救命講習会	普通救命救急	全職員	70
	あすなろの郷課題別論文発表研修	課題別研修論文の発表 ※上位3作品筆者の発表を収録し 所内通信システムサイボウズにて 動画公開	全職員	

	行動障害専門研修	外部講師（九州看護福祉大学准教授）による行動障害に関する専門知識や応用行動分析学に基づいた支援方法の習得等	各課寮1名及び希望者	中止
	支援部専門研修	利用者支援スキルアップ研修	各寮及び活動支援課1名	13
階層別研修	法人管理監督者向け苦情対応研修	【web研修】 外部講師（株式会社エイデル研究所経営支援部コンサルタント）による苦情対応研修	課長、寮長、副参事	15
	「障害福祉制度の理解、人権擁護・意思決定支援」研修	【web研修】 日本知的障害者福祉協会	副寮長・専門員	29
	人権擁護・意思決定支援研修	【web研修】 日本知的障害者福祉協会	主任	17
	ソーシャルワークの基礎研修	【web研修】 日本知的障害者福祉協会	支援員	14
	アンガーマネジメント コミュニケーション術研修	怒りについて学び、怒りとうまく付き合っていく方法を伝達	嘱託職員・臨時職員	46
○J T研修	各所属先指導員等による新規採用職員への実務指導及び育成	非正規を含む新規採用職員	21	

(12) 外部研修

職員の知識、技術の専門性を高めるため、各種専門研修等に派遣した。（単位：人）

主催団体	研修名	受講者数
茨城県社会福祉協議会	【web研修】令和3年度社会福祉施設等新任職員研修	3
	【web研修】アンガーマネジメント研修	1
	【web研修】チームビルディング研修	4
	【web研修】会計基礎研修	9
	【web研修】コーチング研修	4
	【web研修】虐待をしないためのスピーチロック防止研修	4
	【web研修】プレゼンテーション能力発揮研修	2
	【web研修】リスクマネジメント研修	3
	令和3年度社会福祉施設等看護職員研修	中止
	【web研修】記録の書き方研修	3

	【web 研修】 労務管理とコンプライアンス研修	47
	【web 研修】 中堅職員研修	4
	【web 研修】 自己肯定感セルフエスティームを高める研修	4
	【web 研修】 臨床死生学研修	4
	【web 研修】 「福祉の仕事」求人事業所向けセミナー	1
	【web 研修】 動機付け面接（MI）研修	3
	【web 研修】 財務会計スキル活用研修	9
	【web 研修】 決算実務講座	9
	【web 研修】 発達障害研修（子どもの支援編）	3
	【web 研修】 介護福祉士国家試験受験対策講座	5
茨城県心身障害者福祉協会	新たに福祉職に就いた人たちの基礎知識アップ研修	中止
	【web 研修】 茨城県強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	2
	【web 研修】 茨城県強度行動障害支援者養成研修（実践研修）	2
	【web 研修】 虐待防止・権利擁護研修	1
日本発達障害連盟	【web 研修】 さまざまな視点から支援を考える	5
	【web 研修】 自閉症セミナー	5
関東地区知的障害者福祉協会	関東地区知的障害福祉関係職員研究大会	中止
	関東地区知的障害関係施設種別代表者会議	中止
日本知的障害者福祉協会	【web 研修】 全国知的障害福祉関係職員研究大会	2
	【web 研修】 全国知的障害福祉関係施設長等会議	4
	【web 研修】 障害者支援施設部会全国大会北海道大会	3
	【web 研修】 全国生産活動・就労支援部会職員研修会	1
	【web 研修】 日中活動支援部会全国大会秋田大会	12
	【web 研修】 障害福祉制度の理解 ※副寮長・専門員の階層別研修として受講	29
	【web 研修】 人権擁護・意思決定支援 ※副寮長・専門員・主任の階層別研修として受講	46
	【web 研修】 ソーシャルワークの基礎 ※支援員の階層別研修として受講	14
日本ムーブメント教育・療法協会	【web 研修】 ムーブメント教育・療法オンラインセミナー	5

茨城県障害者スポーツ・文化協会	【集合】茨城県障がい者スポーツ指導者養成講習会	中止
国立のぞみの園	【web 研修】知的障害のある犯罪行為者への支援を学ぶ研修会	4
	【web 研修】非行・犯罪行為に至った知的障害者を支援し続ける人のための双方向型実践研修会 (トラウマインフォームドケア)	1
	【web 研修】強度行動障害支援者養成研修 (国・基礎研修)	2
	【web 研修】強度行動障害支援者養成研修 (国・実践研修)	2
アメニティーフォーラム実行委員会	アメニティーフォーラム	中止
茨城県発達障害者支援センターあい	【web 研修】強度行動障害（発達障害）支援セミナー	1
	【web 研修】発達障害支援セミナー（基礎編）	1
	【web 研修】自閉症児者支援専門職員養成研修 フォローアップ研修会	1
鉄道弘済会	【web 研修】第57回社会福祉セミナー	2
茨城県歯科医師会	【集合】摂食嚥下研修会	2
Lean on Me	【web 研修】5法人ジョイントセミナー	22
ピラミッド教育コンサルタントオブ ジャパン	【web 研修】チャレンジング行動：どのように阻止し減少させ、代替行動へ移行する方法	4
日本重症心身障害福祉協会	【web 研修】関東・中部地方日本重症心身障害福祉協会認定重症心身障害看護師研修会	1
	【web 研修】日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会	1
	【web 研修】全国重症心身障害児者施設職員研修会「看護管理研究会コース」	1
	【web 研修】全国重症心身障害児者施設職員研修会「看護師コース」	2
	【web 研修】全国重症心身障害児者施設職員研修会「保育士・児童指導員（療育職員）コース」	1
	【web 研修】全国重症心身障害児者施設職員研修会「栄養士・調理師コース」	1
各種学会	【web 研修】日本神経学会等	8
茨城県滅菌業務研究会	茨城県滅菌業務研究会	中止

※ 主な研修を記載

(13) 地域生活移行の推進

ノーマライゼーションの理念に基づき、利用者の意思を尊重した地域生活への移行を実現するため、主にあすなろの郷利用者を対象に「あすなろホーム宿泊体験」及び「多機能型体験（就労継続支援B型・共生デイサービス）」など、地域での生活体験を毎年受け入れているが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となった。

地域生活移行推進部会の開催については、新型コロナウイルス感染防止への対応として、あすなろの郷利用者の外出制限等により体験や見学など地域移行に係る直接的な取り組みが困難であったことから、あすなろの郷利用者及び職員等に対して、地域移行に係る理解の促進と意識の涵養を図るため、あすなろホーム入居者が地域で生活する様子などを発信した。

① あすなろの郷地域生活移行推進部会の設置及び開催

回数	実施日	内容
第1回	5月17日	・今年度の体制について ・昨年度の振り返り ・今後の取り組みについて確認（地域移行に関すること、体験等の取り組みに関する質疑応答） ・地域生活移行担当者の選任について

② 地域生活の体験利用

令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、体験など実施に至らず実績はなかった。

○主な実績

(単位：人)

内容	人数
あすなろホーム宿泊体験	中止
就労継続支援B型の利用体験	中止
福祉サポートセンターあすなろの見学説明	中止

③ 地域生活に係る理解の促進

あすなろの郷利用者及び職員等に対して、地域で生活する利用者の様子や支援者の取り組みについて法人内ネットワーク（サイボウズ掲示板）を利用し、積極的に発信し紹介することで地域生活移行に係る意識と理解を深めた。

回数	実施日	内容
1	9月10日	帰省代替行事（利用者と職員との親睦「あすなろホーム親睦会」）
2	10月29日	創作的活動（四季折々に応じた装飾作り「秋のみのり」）
3	12月1日	生産活動（あすなろの郷内環境の整備「受託 環境整備作業」）
4	12月28日	余暇活動（季節に応じたイベント「秋を感じるプチ行事」）

(14) あすなろの郷セミナーの開催

茨城県立あすなろの郷セミナーについては、県立施設としての役割を果たすため、県内の民間施設等に対し、知的障害や行動障害を有する方への支援のあり方について外部有識者2名による講義を実施した。

対象者	内容	参加者数
所外事業所等 所内職員	行動障害について外部有識者2名による講義外部に向けてはweb研修として開催 (10月30日)	【講演者】 信州大学 下山 真衣氏 九州看護福祉大学 村本 浄司氏
※広報 ・心身協会施設 ・HP掲載	内部に向けては、録画したものをユニット端末へ配備し、期間限定で閲覧 (12月22日～1月31日)	【受講者】 所外 80名(申込数38組) 所内 110名

(15) 介護保険サービス事業所等との連携

「ちいともネット内原」のつながりにより水戸市内原高齢者支援センター職員による講義を受け「介護保険制度の基礎について」の理解を深めた。

対象者	内容	参加者数
寮長課長会議構成員 参加希望職員	【目的】 障害福祉サービスでの対応が困難な利用者について円滑なサービス移行を実施するため、介護保険制度の理解を深める。 期日：令和3年11月15日 (寮長課長会議に合わせて開催) 方法：オンラインでの講義 内容：介護保険制度の基礎について	【講師】 水戸市内原高齢者支援センター 主任介護支援専門員 佐藤 照美 氏 【受講者】 寮長課長会議構成員 18名 参加希望職員 1名

3 自主事業の実績

(1) あすなろの郷売店事業

① 生活用品等の販売・軽食等の提供

利用者、来訪者等に対する利便を図ることを目的に、生活用品等の販売を行ったほか、軽食等を提供した。

また、売店利用者のニーズに応じたサービスを提供するため要望のあった、雑誌類の販売を開始した。

さらに、9月に売店運営委員会を開催し、売店利用者の意見を取り入れ軽食の新メニューを試行で提供するなどサービス向上に向けた方策を検討した。

② 売店運営体制の拡大

運営体制の拡大として、定休日だった木曜日及び休憩時間だった13時から14時を営業することで、利便性の向上を図った。

IV 福祉サポートセンターあすなろ

自主事業である相談支援事業、多機能型事業及びグループホーム事業を一体的に運営し、利用者の重度化・高齢化というニーズに対応することで、地域で安心して生活を送ることができるようサポートした。全ての職員及び世話人を対象としたコンプライアンス研修を四半期ごとに実施し、公共性の高いサービスである福祉サービスにおけるコンプライアンス意識の定着を図った。

また、支援スキル向上の観点から、支援方法に関する知識や考え方を広く学ぶ研修を実施した。

さらに、あすなろの郷利用者及び職員等に対して、地域で生活する利用者の様子や支援者の取組みを法人内ネットワークを利用し紹介することで、地域生活移行に係る意識と理解を深めた。

年度を通して新型コロナウイルス感染症予防対策を実施し“持ち込まない、拡げない”を徹底したが、4月に複数のグループホームにおいて利用者・職員・世話人が感染した。水戸市保健所及びあすなろの郷病院等と連携して感染拡大防止に努めた結果、罹患した利用者・職員・世話人ともに軽症または無症状で、重症化することなく終息した。

1 相談支援事業（あすなろ相談支援事業所）の運営

主にあすなろの郷及びあすなろホームの利用者を対象に、計画相談支援（サービス利用支援、継続サービス利用支援）及び基本相談支援を実施した。

また、水戸市内原高齢者支援センター主催の地域ケア会議に参加し、地域のケアマネジャーとの連携を深めることで、信頼関係の構築とネットワーク機能の強化を図った。

さらに、相談支援専門員の育成に関しては、職員を計画的に相談支援従事者研修に参加させた。

(1) 実施件数

(単位：件)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
サービス利用	130	73	28	15	16	17	30	19	20	26	27	29	430
継続サービス利用	49	19	62	41	37	115	76	20	55	21	26	108	629
基本相談	2	1	0	0	0	1	1	1	2	1	0	1	10
合計	181	93	90	56	53	133	107	40	77	48	53	138	1,069

(2) 相談支援専門員の育成

① 地域ケア会議への参加 計4回（内2回オンライン会議）

② 相談支援従事者研修 現任者研修修了者 10名
初任者研修修了者 2名

2 多機能型事業（福祉サポートセンターあすなろ）の運営

利用者が就労継続支援B型及び共生型デイサービスにおいて、安定した就労又は活動ができるよう必要な体制の整備、作業活動等の見直しを図った。

また、利用者・職員に対して生活支援環境に適した平穏且つ安心安全な環境を提供するため、防犯・防災に関する必要な取組みを実施した。

(1) 就労継続支援B型（利用定員22名）

利用者に対し、就労の機会やその他の活動の機会を提供した。

各作業については、収益性の検証と利用者特性とのマッチングを図りながら、適宜見直し

を行った。

また、あすなろの郷利用者の体験利用の受入れについては、新型コロナウイルスの影響により通年での実施に至らなかった。

行事に関しては、新型コロナウイルスの影響により小グループでの旅行を中止し、代替行事として利用者のニーズが高い「買い物レクリエーション」を実施した。

① 利用者数

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
在籍者数	34	34	34	34	34	34	34	33	33	33	33	33	403
施設外就労者数	10	10	10	10	9	9	9	9	9	9	9	9	112
延利用者数	189	410	685	561	645	655	688	601	616	507	408	570	6,535

※ 月平均在籍者数 42.9人 (施設外就労者を含む)

② 作業内容

- ・段ボール加工
- ・流通製品加工
- ・おつまみ製品箱詰め
- ・名刺印刷
- ・布製品印刷
- ・環境整備等
- ・クリーニング業務請負 (施設外就労)
- ・清掃業務請負 (施設外就労)

③ 工賃の状況

内 容	令和元年度	令和2年度	令和3年度
月平均利用者数 (人)	28.6	28.6	30.1
月平均支給工賃 (円)	18,187	20,309	20,530

※ 月平均利用者数は、在籍者数ではなく工賃支給者数を基に算出している。

(2) 共生型デイサービス (利用定員 18名)

利用者の状況に応じた介護、創作的活動又は生産活動の機会を提供するほか、身体機能や生活能力の向上のための必要な支援を行った。

地域密着型共生型通所介護 (介護保険サービス) については、利用者1名がサービスを利用した。

行事に関しては、新型コロナウイルスの影響により小グループでの旅行を中止し、代替行事として利用者のニーズが高い「買い物レクリエーション」を実施した。

① 利用者数

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
在籍者数	18	18	18	18	18	18	18	19	19	19	19	19	221
(生活介護)	17	17	17	17	17	17	17	18	18	18	18	18	209
(通所介護)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
延利用者数	104	286	378	299	354	352	362	353	367	314	293	407	3,869

※ 月平均在籍者数 18.4人

3 グループホーム事業 (あすなろホーム) の運営 (利用定員 66名)

利用者が、地域において共同で自立した日常生活を営むことができるよう必要なサービスを提供した。

また、利用者の重度化・高齢化によるバリアフリー住居へのホーム間異動等のホーム再編

については、新型コロナウイルスの影響により延期し、次年度へ繰越すこととなった。

なお、利用者・職員に対して生活支援環境に適した平穏且つ安心安全な環境を提供するため、防犯・防災に関する必要な取組みを実施した。

行事に関しては、新型コロナウイルス感染防止策の徹底を図り、ホームごとの少人数での旅行を実施した。

(1) 主な取り組み

① 世話人の質の確保

必要な技能や知識を習得させるため、世話人研修会を実施した。また、管理者による毎月2回のホーム巡回指導も継続し、必要な指導・助言を行った。

○世話人研修会の実施

コンプライアンス、虐待防止、人権擁護、衛生管理及び感染予防等についての研修を合わせて年4回実施した。

※新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、在宅研修とした。

② 住環境の改善

利用者の高齢化（平均年齢61.9歳／令和4年3月31日現在）に伴い、安全対策としてホーム屋外に照明器具を設置するなど、利用者の安全や快適な生活を確保するための修繕を行った。

(2) 利用者数

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
在籍者数	62	62	62	62	62	62	62	62	62	62	60	60	740
延利用日数	1,830	1,891	1,851	1,920	1,903	1,860	1,922	1,860	1,915	1,922	1,711	1,860	22,445

※ 月平均在籍者数 61.6人

(3) グループホームの状況

令和4年3月末現在 (単位：人)

ホーム名称	所在地	事業開始	入居者数
1 ふれあい	水戸市内原町1427-7	平成11年10月1日	男性3
2 やすらぎ	水戸市内原町1530	平成12年12月1日	男性5
3 くるみ	水戸市内原町1463-140	平成16年7月1日	女性4
4 まつば	水戸市内原町1625	平成16年10月1日	男性3
5 ももはな	水戸市内原町1427-5	平成16年11月1日	女性4
6 くちなし	水戸市内原町1427-6	平成16年12月1日	男性4
7 こはく	水戸市内原町111-10	平成17年7月1日	女性4
8 ひまわり	水戸市内原町1657	平成17年9月1日	女性4
9 すおう	水戸市中原町1622-1	平成17年12月1日	男性4
10 えんじ	水戸市内原町1427-3	平成18年11月1日	女性4
11 あんず	水戸市内原町1427-2	平成18年11月1日	女性4
12 すずめ	水戸市内原町111-10	平成19年7月1日	男性3
13 あさぎ	水戸市内原町1427-8	平成19年10月1日	男性4
14 ききょう	水戸市内原町1188	平成21年3月1日	男性2

15	すみれ	水戸市内原町 1427-4	平成21年 3月1日	女性4
16	そら	水戸市内原町 1537	平成21年 4月1日	男性4
合計60人 (男性32人, 女性28人)				